転生リボーン! 沢田さんとゆかいな(?)仲間達

すぅるめ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
転生リボーン！　沢田さんとゆかいな（？）仲間達

【Ｎコード】
Ｎ８７６２Ｓ

【作者名】
すぅるめ。

【あらすじ】
大好きな大好きなリボーンの世界に行けたと思ってたら、
天使さんの手違えでなんと！沢田綱吉の幼馴染になってしまったヒロイン。
そのため、ヒロインは１０年後ファミリー達とのハチャメチャな生活を送ることに・・。
ヒロインｖｓボンゴレファミリーの物語がはじまる？！

プロローグ

ただいま17時05分。学校の帰り道。

「あぁー。世界ってなんでこんなにもつまらないんだろう。あぁー嫌だ嫌だ。明日からまた学校じゃん。つまんねぇの。」

私、一条（いちじょう）　優菜（ゆうな）

この世界に飽きてしまった女子高生。

身長は169

見た目は多分普通。藍色の髪に黄色の目。

ちなみに長さは膝まで。どう見ても普通の女子高生。

「ちょっと、どこが普通なんだよ！？全然普通じゃあないだろうがっ！！」

ぽかんっ

「―い、痛ぇ・・。なにすんだよ！？」

今、私を思い切り教科書でたたいたのは、私の親友（？　いや、親友じゃあないな。）の

藤本　ヒカル　（ふじもと　ひかる）。

私と同じ高校に通っていて女子制服を着ている男。

「ふんっ！自分のこと普通なんて言ってるからだよ！」

私より身長が少し小さいくらいの背で髪はショートカット。

色は水色で目の色は赤色。
皆からすれば男の子に見えないくらい可愛いなど、男から本当の女だと
思われるくらい女顔。

「普通だよ。女装しているお前に言われたくないな。」

「別にいいだろ！！てか、君だけだよね。一目で僕が男だって気付いたのは。なんで？？」

なんでってそれは・・

「可愛くないから。てか、いきなりなんだよ。」

顔を膨らませ怒ったようにこちらを睨む。

「だっておかしいでしょ！？こーんな完璧な女装が会った瞬間にわかるなんて
おかしいよ！！というか、可愛くないなんて失礼だよ！！」

だって可愛くないもん。お前みたいな男の子に惚れてたまるか。

呆れた顔で私がヒカルを見つめる。はぁっと深いため息をつく。
私はそういうヒカルを放っておいて先に進む。

「早くしないとおいていくよ～。馬鹿ヒカル。」

「ちょっと待ってよ！！」

こいつに会ったのは私が中二の時だったな。
他の奴はこいつを女だと思ったみたいだけど、私は男だって一目でわかった。なんでだろうな？
女の勘か？

「ちょっと聞いてるの？！ねぇ、優菜てば！！」

「え？あぁ、ごめんごめん。で、何？」

また怒った顔をしてこちらを見つめる。
可愛さの欠片もないけどね。

「だからさ！さっき言ってたじゃん。こんな世界つまらないって。
んじゃあどういう世界がいいのさ？」

あぁ。言ってたっけ。
どんな世界？それは決まってるじゃん。

「・・・二次元？」

「はぁ！？」

真面目な顔で言うと、ヒカルは驚いたような顔ではぁ！？と言われた。

いいじゃん。別に。

「はぁ！？とか言うなよ。だって二次元の方が楽しいじゃん？」

呆れた顔でこちらを見るヒカル。

「そんな夢みたいなの無理でしょ？」

それはそうか。まさか、空から降ってくる天使なんて居ないよなぁ・・。

と思いため息ついたその時、

「「！！？」」

「あ、痛たぁ・・・。」

・・空から降ってきやがったよ。天使さん。

目の前には幼女がいた。

「・・あれ何？・・・優菜の知り合い？」

「そんな訳ないだろ。あんなお子様知らないよ。」

その幼女はどう見てもへんな服を着ている。

まるで天使のようだ。羽根は生えてないけど・・

髪の毛の色は金髪で髪を二つに結んでいた。しかも目は青だった。

「――あ！」

あ。やべ、目合ってしまった。

無視無視。

「ちょっと待ってください！！あなた人間ですよね！？困っている人いたら

普通は助けるんじゃあないんですか！！？」
私の腕にしっかりとつかんでいる天使さん。
しかも泣きながら。
「あの。やめてくれない？私が泣かしてるみたいじゃん。てか、ヒカル何とかしろよ。」
「えぇ！？無理だよ！！ぼ、僕関わりたくないから帰るねっ！！」
困ってる私を置いて逃げやがった。
てか、天使さんまだ離れない。
離れてくれ。
「ちょっと待って！！置いていくなよ！！おい、ヒカル！！」
あいつ覚えてろよ。後でボコボコにしてやる。
「はぁ。・・・――あ。」
あぁ。めちゃくちゃ見てる。
とにかく離れようか、天使さん。
「離して？話聞くから。」
「あ、ありがとうございます！！」
ぱぁっと太陽のように笑顔で見つめる。
そして私は深いため息をつく。

「ここ・・どこですか？」

「公園。家だと、兄貴がいるからここでいいでしょ？天使さん。」

私は天使さんを連れて公園に来た。公園って言っても今は誰も使っていない公園だけどね。
その公園をみて天使さんは公園が珍しいのか周りをきょろきょろとしている。

楽しそうだなぁ、天使さん。てか、家帰りたい。

「あの、早くしてもらえない？帰りたいんだけど。」
ぼうっとしていた天使がびっくりした顔でこちらをみてとんでもないことを言う。

「あ・・無理です。というか、これを言いたかったんです。」

「は？何言ってるの？意味がわからないんだけど。」

天使さんは申し訳なそうに言う。
私は本当に意味がわからない。唖然な私。
そんな私に話を続ける。

「あ、あの・・実はあなたは選ばれたんです。」

「な、何に？・・」
選ばれたって何？てか、何に？

「えぇっと・・二次元に転生する人にあなたが選ばれたんです。」
「は？・・・二次元？？？まじで？・・・」
信じられない。てか、天使さん本当に何言ってんですか。
そんな事リアルでありえないだろ。転生とか。
「マジで！？真剣をマジと読むくらいに真剣ですか！？」
「信じられないのは・・無理ないと思うんですが、本当です。」
天使さんは真顔で言うので、私も信じるしかない。
てか、転生ってよく小説であるやつじゃん。
「あ、あなたはこの世界に飽きていて、憂鬱に生活している。
なので、あなたが選ばれたんです！！」
「確かに、この世界には飽きてるけど・・まさか転生なんて夢見てるみたいだよ。」
はは。笑うしかないねぇ。ったく・・
「理解してもらえましたか？」
まぁ。理解するしかないでしょ・・。
「う、うん。まぁね。・・・」
呆れ顔の私に、なぜかホッとしたのか天使さんは

「・・よかった。これで心おきなく殺せるます・・」

「――は？・・待て。殺す？・・私を？」

「はいっ！・・あ！大丈夫ですよ？痛くないように一瞬でやりますから！」

笑顔で答える天使さん。
なぜか知らないけど天使さんの小さな左ポケットから大きい死神のような鎌を出した。

「よいっしょ。いいですか？いきますよ！！」

「―え？あぁ！？は？？！ちょっとま――――！！！」

えいっという掛け声とともに下された鎌によって私は容赦なく天使さんに殺された。

「・・ぅん？・・・」
どこ・・ここ。
ていうか、いい香りがするなんだろう。
・・この香りは・・

「あ、やっと起きたか。優菜。」

へ？・・・この声・・もしかして・・

「お前の好きなセカンド入れたから、早く飲め。」

鼻から感じるダージリンの良い香りが私を覚醒へと導いていた。

「っ！！？――さ・・」

「・・ん？・・・さ？」

私は心臓が止まるかと思った。
てか、天使さんの言ってた事本当だったんだ。
そう、今私の目の前いる人物。それは・・

「沢田綱吉っ！！？」

そう。沢田綱吉だった。しかも、十年後。

「は？何言ってんの優菜？頭でもぶつけた？」

いやいや、あなたの頭が大丈夫ですか！？
てか、それ以上近づかないで！！
し、しかもなんで私の名前知ってるの！？

「きゃあぁ！！来ないで！！」

「っ！！？ゆ、優菜？」

ゴン

「・・ぁ。」

「優菜っ！！」

何かに頭をぶつけた私は、そのまま気を失った。

「…リボーン。何も殴ることないだろ・・？」

「仕方がねぇだろ。こうするしかなかったんだ。」

苦笑するツナに対し、リボーンは呆れた表情でツナを見つめるのだった。

ここは・・どこ？
夢の中？

ここは床も壁もない真っ白な空間。
そこに私は一人で立っていた。

（――っさん！！）

え？何？誰・・

（優菜さんっ！！！）

（！！？）

天使さん！？
どうしてここに・・
というか！！

（なんであの時私を殺したんですか！！？）

走ってくる天使さんを私が睨む。

（・・え？・・あれは、ああするしかなかったんです。
でも・・よかったです。もう一度あなたに会えて。）

きょとんとした天使さん。

（・・え？何で？）

（えっと・・実は謝らなければいけない事が・・）

申し訳なそうに言う天使さん。私は不思議そうに尋ねる

（謝る？？・・・！！？）

（えっと、私の手違いにより・・その・・）

そうだ！思い出した！！

（―な、なんでリボーンの世界なの！？・・まぁ、それは嬉しいんけど・・

そ、そうじゃあなくて！！なんで沢田綱吉があんなに私に構ってくるの！？

どうして！！？）

（・・それが・・私が設定を間違えて・・あなたを、沢田綱吉の幼馴染にしてしまいました！！

すいません！！）

（―え？間違えた？？しかも・・幼馴染？・・綱吉の？

・・ふ、）

（ふ？・・）

（ふざけるなぁああ！！）

キレる私。驚く天使。

（！！？）

（なんで幼馴染なの！？ありえない！！どうせならッ骸様の許嫁とか、雲雀さんの妹とかないの！！？なんでよりによって綱吉の幼馴染なわけ！？一番めんどくさいじゃんかよ！！）

（・・本当にすいません。それと言ってはなんですが・・これを・・）

（・・ん？な、何これ？）

（開けてみてください。）

（！！？・・これは私の・・）

目の前に出された袋を開けるとそこには
私の携帯とｉＰ○ｄがあった。

（すいません。私の大変な間違えでこんな事になってしまって・・）
はぁ。そんな顔すんなよ。・・しかたがないか・・

（まぁ。誰だって間違えはあるもんな。）

（え？）

（ありがとうね。・・がんばるよ。）

（え？あぁ、はいっ！！頑張ってください！！）

私、いい奴？？

（・・うん。じゃあね。天使さん。）

（優菜さん・・。こ、困った時は私を呼んでください！！そ、そしたら会えますから！！）

（わかった。・・名前なんて言うの？天使さん。）

（え？・・あ、私は・・シィナといいます！！）

（シィナか。わかった。覚えておくね。んじゃ。）

（頑張ってください！！）

シィナは私に笑顔で手を振ってきたので私も笑顔で手を振ってやった。

プロローグ（後書き）

初めて書きましたｗｗ
書いてて自分は楽しかったです。

でも初めてで皆さんのようにうまく書けてないです！！（（汗

もし、アドバイスがあれば書いていただけば助かります・・
おねがいします・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8762s/

転生リボーン! 沢田さんとゆかいな(?)仲間達

2011年10月8日03時48分発行